

尚志の本県出身3選手、完全燃焼 “全国制覇の夢”後輩に

「福島選手でも戦えることを見せることができた」。千葉市で3日に行われた全国高校サッカー選手権大会で立正大湊南(しょうなん)(島根)に0-2と敗れた尚志だが、郡山市のジュニアユースチーム、ラッセル郡山FC出身の3選手の顔には悔しさとともに充実感が漂った。

ラッセル郡山は「福島子どもたちを強い選手に育てたい」と、尚志の仲村浩二監督が設立に携わり2008(平成20)年に誕生した。「1期生」として加入したのが現在3年のGK新明武大(郡山市出身)、MF中村駿介(同)、斎藤祐哉(会津坂下町出身)の3選手ら。3人は中学時代から尚志高のグラウンドで練習するなどして高いレベルを経験、互いが切磋琢磨(せつさたくま)しながら練習に打ち込んだ。県外からも有力選手が集まる尚志に入学した後も、3人は「県内出身選手も活躍できることを示す」と強い気持ちを持ち続け、高校選手権の出場切符とメンバー入りを勝ち取った。

リードを許す展開となったが、新明選手は守護神としてゴール前で大きな声を出し続けた。後半からピッチに立った中村選手も出場直後に惜しいシュートを放った。斎藤選手は出場機会はなかったが、前日の2回戦であわやゴールという場面をつくりだした。

「一日一日必死に練習すれば、全国の選手に引けを取らずプレーできる」と胸を張った中村選手。目標の全国制覇は達成できなかったが「福島の後輩たちにはチャレンジを続けてほしい」。3人は充実した表情で高校サッカー生活に終止符を打った。

(2015年1月4日 福島民友ニュース)



後半、途中出場直後にシュートを放つ中村選手